

# 主権者教育に関するアンケート調査結果からみた 大学教育機関の課題

—計量テキスト分析を活用した試論—

林 健一\*

## 第1章 はじめに

2015(平成27)年の公職選挙法改正により、選挙権年齢が20歳以上から18歳以上に引き下げられた。この選挙権の拡大を契機として、「主権者教育」のあり方が問われるとともに、高等学校教育を中心に、各地域での取り組みが進展している。

近年の議論の嚆矢となるものとして、総務省の「常時啓発事業のあり方等研究会」の最終報告書「社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を目指して—新たなステージ『主権者教育』へ」(2012年12月公表)がある。

同報告書(pp.5-6)では「国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していく新しい主権者像」が提示され、そのキーワードとして「社会参加」と「政治的リテラシー(政治的判断力と批判力)」の他、「政治・選挙に関する知識や投票義務感などの道義的責任を備えていることが前提となる」としている。

また、主権者教育を「社会の構成員としての市民が備えるべき市民性を育成するために行われる教育であり、集団への所属意識、権利の享受や責任・義務の履行、公的な事柄への関心や関与などを開発し、社会参加に必

要な知識、技能、価値観を習得させる教育である。その中心をなすのは、「市民と政治との関わり」である(同報告書 p.7)としている<sup>1)</sup>。

2015(平成27)年には、選挙権年齢引下げに対応し、学校現場における政治や選挙等に関する学習内容の充実を図るための副教材として、「私たちが拓く日本の未来—有権者として求められる力を身に付けるために—」(総務省・文部科学省)が作成されている。

同書の解説編(第1章「3 有権者として身に付けるべきこと」)では、「政治的な教養」を育むことの必要性を指摘し<sup>2)</sup>、表1のとおりに、「国家・社会の形成者(民主主義の担い手)」に求められる4つの力を挙げている。

表1 「国家・社会の形成者として求められる4つの力」

- 論理的思考力(とりわけ根拠をもって主張し他者を説得する力)  
自分の意見を述べる際には根拠をもって説明することが重要であることを理解するとともに、異なる立場の意見がどのような根拠に基づいて主張されているかを検討し、議論を交わす力。
- 現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力  
現実社会においては様々な立場やいろいろな考え方があることについて理解し、それらの争点を知った上で現実社会の諸課題について公正に判断する力。
- 現実社会の諸課題を見出し、協働的に追究し解決(合意形成・意思決定)する力  
お互いに自分の考えや意見を出し合い、他者の考えや価値観を受け入れたり意見を交換したりしながら、問題の解決に協働して取り組む力。
- 公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度  
大きな社会変化を迎える中で、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きることを、持続可能な社会の実現を目指すなど、公共的な事柄に自ら参画していこうとする力。

出典) 副教材 (p.30)

\* 中央学院大学 社会システム研究所特別研究員/現代教養学部准教授

このような力を育むため、公民科や「総合的な学習の時間」などにおいて、実践的な学習活動が取り入れられている<sup>3)</sup>。

また、2018（平成30）年3月には、新しい高等学校学習指導要領が公示され、公民分野の必修科目として「公共」が新設され、2022年度の新入生から実施することが予定されている。

一方、大学における学士教育課程に目を移すと、中央教育審議会が2008（平成20）年12月に答申した「学士課程教育の構築に向けて」では、学士課程教育の目的は、職業人養成にとどまるのではなく、自由で民主的な社会を支え、その改善に積極的に関与する市民や、生涯学び続ける学習者を育むことなど、教育機関として多様な役割・機能を担うべきことが指摘されている。

必修科目となった高等学校の「公共」は、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働してよりよい社会を形成することなどを目指しており、主権者教育の中核的な位置を占めていくことが予想される。

しかし、高校教育という限られた期間の中で、前述した4つの力を身につけ、若者の意識や行動様式が大きく変化し、投票参加が促進されるという好循環が確立するとは考えにくく、大学においても主権者教育に取り組んでいく必要があると考えられる。

この際、高校と大学の教科、カリキュラムを別個のものとして構想するのではなく、それぞれが段階性と連続性を持つ、いわゆる「高大接続／連携」の形をとりながら、大学教育機関にふさわしい主権者教育を実施していく必要があると思われる。

本稿では、こうした問題関心の下、大学教育機関における主権者教育を具体化していくための基礎的研究に取り組んでいくものとする。

具体的には、筆者が実施した主権者教育に関する3つのアンケート調査事例を紹介するとともに、選挙への参加意向（参加・不参加）とその理由（自由記述）について分析を行っていく。この自由記述の分析手法としては、「計量テキスト分析手法」<sup>4)</sup>を用い、学生たちの意見・意識から見た、主権者教育の方向性を探索していくものとする。

## 第2章 主権者教育に関する3つのアンケート調査事例

### 1 「18歳選挙権講演会」における調査結果（事例1）

#### (1) 調査概要

中央学院大学中央高等学校において、高大連携による高校生向け模擬授業「18歳選挙権講演会」を実施した<sup>5)</sup>。授業実施後、受講生に対するアンケート調査を行った。調査の概要は次のとおりである<sup>6)</sup>。

- a. 調査日 平成29年6月12日（月）
- b. 調査対象者 中央学院大学中央高等学校（東京都江東区亀戸）3年生114名
- c. 調査事項（質問項目）
  - ・選挙のしくみに対する説明の理解度。
  - ・選挙権が18歳に引き下げられたことについて、どのように考えているのか。
  - ・選挙に行こうと思うか（選挙への参加意向）。またその理由。
- d. 回収状況 対象者114名中、回収数112名（未提出2名）
- e. 回答者の属性 男子59%（67人）  
女子39%（45人）

## (2) 選挙のしくみに対する理解度

①選挙のしくみについて理解できましたか？いずれかに○を付けなさい。

【よく理解できた・理解できた・あまり理解できなかった・理解できなかった】

講義を行った選挙のしくみの理解度については、理解できた(41%)が最も多い。次に、あまり理解できなかった(39%)、理解できなかった(9%)、よく理解できた(8%)の順となっている。

## (3) 選挙権が18歳に引き下げられたことに対する考え方。

②選挙権が18歳に引き下げられたことについて、あなたはどのように考えますか。あなたの考えを述べなさい。(自由記述)

選挙権が18歳に引き下げられたことに対する考え方について自由記述してもらったところ、肯定的に捉える意見は61件、否定的に捉える意見は43件、その他意見8件であった。

全体的傾向としては、選挙権が18歳に引き下げられたことを肯定的に解している傾向がみられる。

しかし、個別の意見件数の傾向をみると、若者の意見や票が反映されてよいと思う(20件)、続いて、18歳はまだ早い(難しい)と思う(14件)、18歳に引き下げても選挙に行く人はあまりいない(投票率は変わらない)と思う(12件)の順であり、18歳への引き下げを否定的に捉える意見が上位を占めている<sup>7)</sup>。

## (4) 選挙への参加意向

③あなたは選挙に行こうと思いますか？いずれかに○を付け、その理由を答えなさい。

【必ず選挙に行く・たぶん選挙に行く・たぶん選挙に行かない・選挙には行かない】理由(自由記述)

選挙への参加意向については、図1のとおり、必ず選挙に行く(18%)、たぶん選挙に行く(35%)、これらの合計は53%となっており、回答者の過半数を超えている。これに対し、たぶん選挙には行かない(33%)、選挙には行かない(12%)の合計は45%である。

選挙への参加意向についての選択理由を自由記述で求めたが、その結果は巻末資料のとおりである。これらの意見については、第3章において、他の2つの事例とともに、計量テキスト分析(テキストマイニング)方法を用いて分析を加えていく。

なお、たぶん選挙に行く(40件、35%)の理由には、「選挙のしくみなどをしっかり理解できたら行こうと思います」(同旨、他4件)、「親が行けと言っているから多分行く」(同旨、他1件)、「今日話を聞いて何となく行っというほうが良いかなと思った」(同

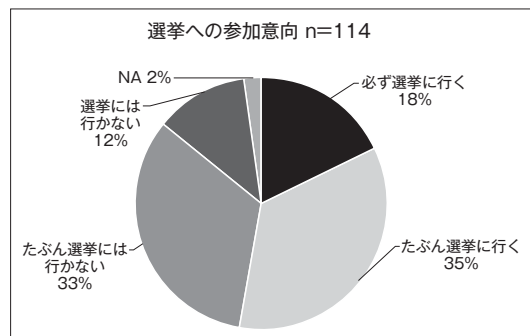


図1 選挙への参加意向(授業受講後)

出典) 筆者作成

旨、他1件)、「正直行く想像が付きません」、「今回の講演会で今は選挙に参加しようと思うが、将来の自分に対し自信がないので行かない可能性もある」、「暇だったら行く」など、非参加意向に転じる可能性のある回答者も含まれている。

次に、選挙への参加意向を男女別に集計した結果は次図のとおりである。男子の回答(図2-1)で最も多い回答は、たぶん選挙に行く(39%)であった。女子の回答(図2-2)で最も多い回答は、たぶん選挙には行かない(47%)であった。

なお、男子と女子の発生率について、カイ2乗検定を用いて検定したが、有意差は認められなかった( $p>0.05$ )。

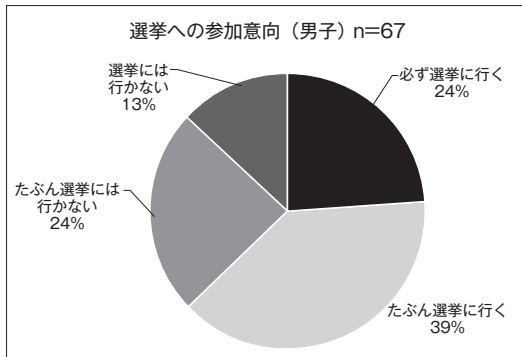


図2-1 選挙への参加意向(高校生男子)

出典)筆者作成

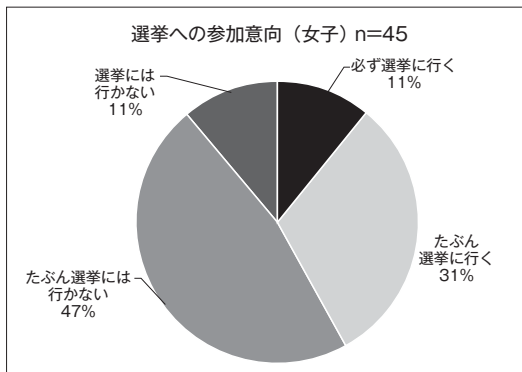


図2-2 選挙への参加意向(高校生女子)

出典)筆者作成

## 2 「地域と社会(2018年度春 semester)」授業における調査結果(事例2)

### (1) 調査概要

筆者が中央学院大学現代教養学部で担当している「地域と社会」(春 semester・選択必修2単位)の第7回講義において、地方自治体の選挙と代表、私たちと選挙の関わりについて講義を行った。この授業実施後、受講生を対象に Web Class を活用したアンケート調査を行った。調査の概要は次のとおりである。

- a. 調査日 平成30年6月1日(金)
- b. 調査対象者 7名(いずれも2年生)
- c. 調査事項(質問項目)
  - ・選挙に行こうと思うか(選挙への参加意向)。またその理由。
  - ・選挙権が18歳に引き下げられたことについて、どの様に考えているか。
- d. 回収状況 対象者7名中、回収数7名
- e. 回答者の属性 男子71%(5人)  
女子29%(2人)

### (2) 講義資料の紹介

アンケート調査の分析に先立ち、「地域と社会」第7回講義において使用した教材(パワーポイント)を紹介したい。

この教材では、財政難に陥った201×年の日本において、有力な税財源となる「(空想政策)スマホアプリに税金を課税する法案」が国会に上程され、その是非について住民投票を行うというシナリオにより、若者が選挙に行かないことで起こりえる問題について考えるものである。

教材作成にあたっては、たかまつ(2017, pp.76-87)に掲載されている、選挙に行かないと不利益を被ることを実感してもらう「逆転投票シミュレーション」ゲームを参照した。

また、当日の授業においては、地方自治体の選挙と代表、私たちと選挙の関わりなどについて講義を行っているが(表2参照)、「私たちと選挙の関わり」のなかで本教材を取り扱っている。

表2 授業の構成

地方自治体の選挙と代表

- ◆前回のふり返り
- ◆地域の意思決定と選挙
- ◆地方自治体の代表選出と選挙
- ◆私たちと選挙の関わり
- ◆本日のまとめ・次回予告

出典) 筆者作成

私たちと選挙の関わり ③-1

◆街の声を聞いてみました

× 反対

18歳 高校生  
そんなのずるい!

24歳 会社員  
通勤中の楽しみを奪うな!

40歳 主婦  
ストレス解消法をなくさないで!

私たちと選挙の関わり ③-2

◆街の声を聞いてみました

○ 賛成

65歳 会社社長  
ゲームなんて時間の無駄、無駄!

80歳 おばあさん  
何が楽しいのかねえ?

私たちと選挙の関わり ①

◆おバカは選挙に行かないほうがいい?

「18歳の若者が変な候補者に投票し、選挙の質を下げる？」

「私投票したらダメ!勉強していないから分からないもん。」

↓

**選挙に行かないと大変なことが起きます!**

**若者が損しないために選挙に行こう!**

(以下の参考文献) たかまつな(2017)「政治の根本」

私たちと選挙の関わり ④-1

◆多数決をしてみよう

\*1人ずつ平等に100ポイントを付与

反対派 300ポイント

賛成派 200ポイント

よって、この政策案は「否決」?

私たちと選挙の関わり ②

◆「逆転投票シミュレーション」で考えよう

201×年の空想政策を「住民投票」する

**「スマホゲームアプリ、税金を課税」**

私たちと選挙の関わり ⑤-1

◆もう少し現実に近づけてみよう

\*人口200万人につき10ポイントを付与(人口比を考慮)

世代別人口ポイント


世代	ポイント	人口
80代	40	(800万人)
60代	90	(1800万人)
40代	90	(1800万人)
20代	60	(1200万人)
18-19歳	10	(200万人)

図3 講義で使用した教材(パワーポイント)


出典) 筆者作成

**私たちと選挙の関わり ⑤-2**


**× 反対** 160ポイント



10ポイント




60ポイント




90ポイント

**○ 賛成** 130ポイント



90ポイント



40ポイント

**私たちと選挙の関わり ⑥-1**

◆さらに現実近づけてみよう  
\* 世代別人口ポイントに投票率をかけてみる(投票率を考慮)

世代	人口ポイント	投票率	影響力ポイント
18・19歳	10	× 0.5 (50%)	5
20代	60	× 0.3 (30%)	18
40代	90	× 0.5 (50%)	45
60代	90	× 0.7 (70%)	63
80代	40	× 0.6 (60%)	24

**私たちと選挙の関わり ⑥-2**

**× 反対** 68ポイント



5ポイント



18ポイント



45ポイント

**○ 賛成** 87ポイント



63ポイント



24ポイント

よって、この政策案は「成立」!

**私たちと選挙の関わり ⑦**

◆「逆転投票シミュレーション」(まとめ)

**シルバー民主主義?**  
少子高齢化の進行で有権者に占める高齢者(シルバー)の割合が増し、高齢者層の政治への影響力が増大する現象。

当選したい政治家が、多数派の高齢者層に配慮した政策を優先的に打ち出すことで、少数派である若年、中年層の意見が政治に反映されにくくなり、世代間の不公平につながるとされている。

↓

選挙に参加し、若者の声を政策に反映させよう!  
投票する権利は18歳から

**本日のまとめ**

◆選挙の意義

- ①地域の意思決定を行う、住民の代表を選ぶ。
- ②住民の多様な意見を集約し、政策に反映する。

⇒地方自治体の「住民自治」を具現化する意義を持つ。

\*全国的に、投票率の低下傾向が指摘されている。  
とりわけ、若年層の投票率は、他の年代と比べて、低い水準にとどまっている。

\*投票に行く意義をもう一度考えてみて下さい。

図3 講義で使用した教材(パワーポイント)  
出典)筆者作成

### (3) 選挙への参加意向

問3-1 あなたは次の選挙に行こうと思いますか? 最も近いもの1つを選んでください。

(1. 必ず選挙に行く、2. たぶん選挙に行く、3. たぶん選挙に行かない、4. 選挙には行かない)

問3-2 問3-1で選んだ選択肢の理由を教えてください。(250字以内)

選挙への参加意向については、必ず選挙に行く(100%、7名)であった。この選択理由を自由記述で求めた結果は、巻末資料のとおりである。これらの意見については、第3章において、他の2つの事例とともに、計量テキスト分析(テキストマイニング)の方法により分析を加えていく。

### (4) 選挙権が18歳に引き下げられたことに対する考え方。

問4 選挙権が18歳に引き下げられたことについて、あなたはどのように考えますか。あなたの考えを教えてください。(250字以内、自由記述)

選挙権が18歳に引き下げられたことに対する考え方について、受講生に自由記述してもらったところ、肯定的に捉える意見は3件、否定的に捉える意見は2件、その他意見2件であった。

### 3 「地域と社会（2019年春 semester）」 授業における調査結果（事例3）

#### (1) 調査概要

2018年度と同様に、筆者が中央学院大学現代教養学部で担当している「地域と社会」（春 semester・選択必修2単位）第13回講義において、地方自治体の選挙と代表、私たちと選挙の関わりについて講義を行った。講義資料についても前年度と同じものを使用した。この授業実施後、受講生を対象に Web Class を活用したアンケート調査を行った。調査の概要は次のとおりである。

- a. 調査日 令和元年7月12日（金）
- b. 調査対象者 27名（うち2年生20名、3年生7名）
- c. 調査事項（質問項目）
  - ・選挙に行こうと思うか（選挙への参加意向）。またその理由。
  - ・選挙権が18歳に引き下げられたことについて、どの様に考えているか。
- d. 回収状況 対象者27名中、回収数27名
- e. 回答者の属性 男子85%（23人）  
女子15%（4人）

#### (2) 選挙への参加意向

- 1-1) あなたは次の選挙に行こうと思いませんか？ 最も近いもの1つを選んでください。
- (1. 必ず選挙に行く、2. たぶん選挙に行く、3. たぶん選挙に行かない、4. 選挙には行かない)

1-2) 1-1で選んだ、選択肢の理由を教えてください。

選挙への参加意向については、図4のとおり、必ず選挙に行く（37%）、たぶん選挙に行く（37%）、これらの合計は74%となっており、回答者の過半数を超えている。

これに対し、たぶん選挙には行かない（26%）、選挙には行かない（0%）である。これらの選択理由を自由記述で求めた。その結果は巻末資料のとおりであり、第3章において、他の2つの事例と併せて、計量テキスト分析（テキストマイニング）の方法により分析を加えていく。

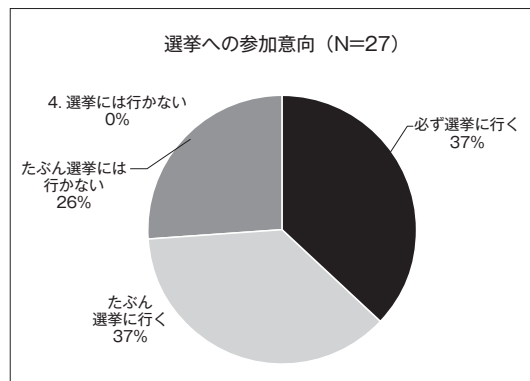


図4 選挙への参加意向（大学2年生男・女）  
出典）筆者作成

#### (3) 選挙権が18歳に引き下げられたことに対する意見

- 3) 選挙権が18歳に引き下げられたことについて、あなたはどのように考えますか。  
あなたの考えを教えてください。（200字以内、自由記述）

選挙権が18歳に引き下げられたことに対する考え方について、受講生に自由記述してもらったところ、肯定的に捉える意見は15件、否定的に捉える意見は5件、その他意見6件であった。

#### (4) 講義全般に対する質問・意見・感想

4) 今日の講義についての「質問」「意見」「感想」があれば、記入して下さい。

以上の選挙に関するアンケートと併せて、講義に対する「質問」「意見」「感想」の記述を求めた。

その結果、「若者の投票率向上に向けた提案」の他、「低調な若者の投票率・政治参加に対する学生の考え方（見方）」についての意見が見られた。ここでは、後者の意見のみを紹介していく。

【低調な若者の投票率・政治参加に対する考え方（見方）】

- 1) 若者の中には、結局投票しても優遇されるのは人数の多い高齢者ばかりで人数の少ない我々が投票しても意味がないという諦めもあるのではないだろうか。
- 2) 若者がその地域で過ごしやすくなるためには、投票に行くべきであり、若者に向けた政策を考えるべきであると思った。
- 3) 選挙に行かない若者が増えることで、それ以外の選挙に行っている人中心の社会ができてしまうと思った。例えば、選挙に行っている人に高齢者が多ければ高齢者中心の政策が行われてしまう。
- 4) 本当にこれからの日本の社会を良くしたいのであれば、積極的に若者たちも選挙に行く必要があると思いました。

そのためにはまず政治に興味関心を抱く必要があると感じます。

- 5) 若者達は選挙に行かない人が多いため、高齢者層に有利な人が多くなっているのが現状。そうならないことを少なくする為に、若年層も行く必要がある。
- 6) 選挙の投票日が迫っているが、若者の投票率の低さは改善しないと思う。議員が若年層の希望をかなえる政策を減らす前に改善していかなければいけないと感じた。

### 第3章 計量テキスト分析— 「選挙への参加意向」とその理由

#### (1) 分析の方法

本章では、前述した3つの事例の調査項目のうち、選挙への参加意向（1.必ず選挙に行く、2.たぶん選挙に行く、3.たぶん選挙に行かない、4.選挙には行かない）を選んだ選択肢の理由（自由記述）146件について分析を行った。

この分析には、計量テキスト分析手法を用い、樋口耕一氏（立命館大学）によって開発されたKH Coderを利用した<sup>8)</sup>。

この際、各テキスト（自由回答文）に対応する外部変数については、選挙への参加意向のうち「1.必ず選挙に行く」と「2.たぶん選挙に行く」を「選挙に参加」とし、「3.たぶん選挙に行かない」と「4.選挙には行かない」を「選挙に不参加」とした。

分析の手順は、第一に抽出語の分析を行った。具体的には、抽出語の出現回数の多い方から順に150語を抽出した。

第二に、抽出語と外部変数の関係について分析を行った。具体的には、参加意向別（選挙に参加、選挙に不参加）に、Jaccard係数



の上位10位までの確認を行った。続いて、抽出語と外部変数の共起関係を視覚化するため、共起ネットワーク図を作成した。

## (2) 抽出語の「出現回数」の分析

本節では、第一段階の分析として、自由記述全体でどの様な語が多いのか、あるいは少ないのかを把握するため、抽出語(全体)の出現回数(term frequency)を把握した。

抽出語(全体)の出現回数に基づく記述統計量は、抽出語は全部で309個あり、その出現回数の平均値は3.15回、標準偏差は7.95である。

また、出現回数10までの累積パーセントは95.15であることから、抽出語全体の約95%は、出現回数が10回以下ということになる。この抽出語(全体)の出現回数の多い方から順に150語を抽出した。その結果は表3のとおりである。

## (3) 参加意向別に見た抽出語の特徴

本節では、文章中に出現する語と語が共に出現(共起)する関係(抽出語と抽出語の共起)、抽出語と外部変数の関係について分析を行った。前述のとおり、「選挙に参加」については「1.必ず選挙に行く」と「2.たぶん選挙に行く」の2つをまとめたものであり、「3.たぶん選挙に行かない」と「4.選挙には行かない」については「選挙に不参加」とし、これらの外部変数と各テキスト(自由回答文)に対応を分析した。

このうち「選挙に参加」と関連が強い抽出語の出現回数は88件、「選挙に不参加」と関連が強い抽出語の出現回

表3 抽出語の特徴(頻出150語)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
行く	54	結果	2	我孫子	1
自分	42	候補	2	外	1
選挙	37	講演	2	学ぶ	1
思う	35	今後	2	活かす	1
政治	17	今日	2	感じ	1
考える	15	使う	2	環境	1
投票	15	自身	2	観察	1
変わる	15	実現	2	間接	1
理解	14	住民	2	関係	1
分かる	12	出る	2	関与	1
日本	10	出来る	2	嬉しい	1
持つ	9	将来	2	帰省	1
興味	8	詳しい	2	起こす	1
親	8	数字	2	議員	1
人	7	世代	2	休日	1
政策	7	大差	2	協力	1
義務	6	町	2	恐れ	1
国	6	当選	2	教える	1
今	6	年齢	2	近い	1
参加	6	必ず	2	形	1
少し	6	必要	2	経験	1
聞く	6	不利	2	決まる	1
決める	5	変える	2	結局	1
国民	5	変化	2	嫌	1
歳	5	望む	2	憲法	1
若者	5	未来	2	県会	1
住む	5	面倒くさい	2	見る	1
選ぶ	5	予定	2	見出せる	1
大事	5	良い	2	厳しい	1
意見	4	話	2	現在	1
関わる	4	あたりまえ	1	現状	1
関心	4	もう少し	1	現代	1
権利	4	やり方	1	言う	1
行う	4	シルバー	1	公約	1
今回	4	チェック	1	口	1
生活	4	バランス	1	向く	1
地域	4	プラス	1	向上	1
内容	4	悪い	1	行ける	1
入れる	4	意義	1	行政	1
可能	3	意思	1	講義	1
家族	3	一緒	1	高い	1
気	3	一人暮らし	1	高校	1
考え	3	影響	1	高齢	1
時間	3	汚職	1	合わせる	1
社会	3	下がる	1	国会	1
場所	3	何となく	1	国籍	1
大切	3	価値	1	今度	1
以降	2	家	1	差別	1
意味	2	暇	1	最終	1
感じる	2	暇	1	山	1

出典) KH Coder を利用して筆者作成

数は 58 件となっていた。

これらについて参加意向別（選挙に参加、選挙に不参加）に、関連性の高い抽出語の Jaccard 係数（上位 10 位まで）を確認した。

Jaccard 係数とは、「ある語」と「ある語」の関連性（類似性・共起性）の程度を表す指標の 1 つであり、通常のデータ分析の相関係数に相当する。「ある語」と「ある語」の関連性（共起性）が弱いほど 0 に近く、強いほど 1 に近い値になる（樋口, 2014, p.39）。

Jaccard 係数は、相対的な指標であるが、末吉（2019, p.214）は、データ解釈の目安として、表 4 の基準を紹介している。

表 4 Jaccard 係数の目安

「0.1」 → 「関連がある」
「0.2」 → 「強い関連がある」
「0.3」 → 「とても強い関連がある」

出典) 末吉 (2019, p.214) を参照し作成

表 4 の基準に基づき、「選挙への参加意向別」に見た抽出語の特徴（上位 10 位）を整理したものが、表 5 である。

「選挙に参加」の区分においては、「行く」「自分」「思う」「選挙」が強い関連を持つ語として抽出されているが、これらには、次のような意見がこれに該当している（下線は、筆者が付した）。

- a. 「選挙に行くことは国民の権利であり、義務であると考えているからである。」（意見 No.120）
- b. 「自分も選挙に参加してみたいと思うから。」（意見 No.33）

このため、「選挙に参加」の区分では、「行く」「自分」「思う」「選挙」を対象外とし、「投票」「義務」「権利」「参加」「親」に注目していく。

また、「選挙に非参加」の区分においては、「変わる（変わらない）」「分かる（分からない、分かんない）」「理解」が強い関連を持つ語として抽出されているが、これらに加えて「興味」「関心」「結果」「面倒くさい」「家族」についても分析の対象としていくことにする。

表 5 「選挙への参加意向別」に見た抽出語の特徴（上位 10 位）

選挙に参加		選挙に不参加	
行く	.317	変わる	.197
自分	.296	分かる	.133
思う	.258	理解	.108
選挙	.247	興味	.065
投票	.133	関心	.051
政治	.117	今	.049
考える	.108	結果	.035
持つ	.090	面倒くさい	.035
親	.080	良い	.035
義務	.068	家族	.034

注) 数値は Jaccard 係数  
出典) KH Coder を利用し、筆者作成

#### (4) 抽出語と外部変数の共起ネットワーク分析

共起ネットワークとは、抽出語の関連性を分析したものであり、抽出された言葉の頻度は円の大きさと、また関連性（共起性）は線のつながりで直感的に確認できる特徴を持つ。

共起性の分析には、抽出語間の共起性の分析と、抽出語と外部変数の関係性の分析の 2 種類がある。

本稿では、「選挙への参加意向」（外部変数）と抽出語の関係性について分析を加えていくものとするが、この結果について整理したものが、図 5 である。

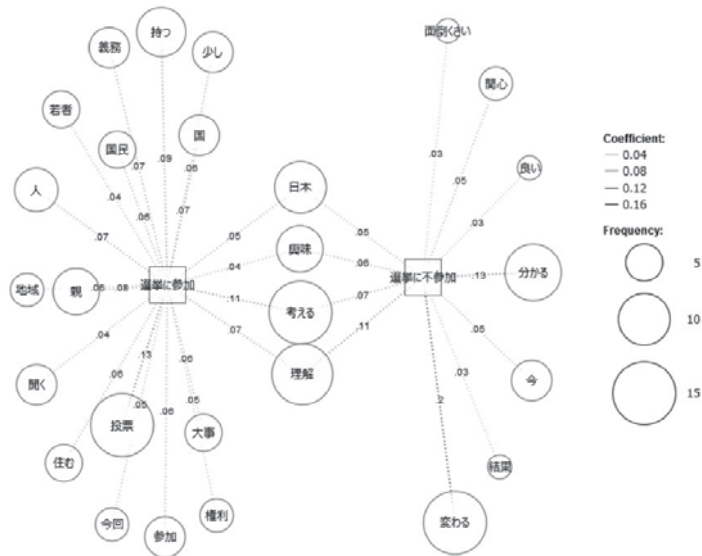


図5 「選挙への参加意向」と抽出語の共起ネットワーク（出現回数1～15・上位30位）

注) N (node) 29、E (edge) 31、D (density) 0.76  
出典) KH Coder を利用し、筆者作成

#### (5) 「選挙に参加」の区分における具体的な意見内容

本稿では、「選挙に参加」を特徴づける言葉として、「投票」「義務」「権利」「参加」「親」を議論の対象としている。

意見の具体例は以下のとおりであるが、これらの意見は「選挙・投票に対する義務感」「選挙・投票に対する権利意識」「選挙・投票を通じた社会参加への意欲」「親からの影響-受動的な態度」の4つに大別できる。

##### Category1-1 「選挙・投票に対する義務感」

「義務」（頻度6）

「選挙に行くことは国民の権利であり、義務であると考えているからである。」（意見 No.120）

「国民の義務だと思うから。」（意見 No.115）

##### Category1-2 「選挙・投票に対する権利意識」

「権利」（頻度4）

「唯一持っている大きな権利なので、投票

しないのはもったいないと思ったから。政治に興味があるから。」（意見 No.119）

「自分も権利を持っているのだから無駄にしないため。」（意見 No.31）

##### Category1-3 「選挙・投票を通じた社会参加への意欲」

「投票」（頻度11）

「自身も無関係ではなく、生活や今後の変化に自身の考えを投票したいから。」（意見 No.124）

「せっかく貰った一票なので自分で考えて投票したいと思ったからです。」（意見 No.133）

「参加」（頻度5）

「選挙に行かないと、どのような地域政策を行おうとしているのが分からない。そして自分の意思を示すことが出来ないから参加する」（意見 No.130）

「自分も選挙に参加してみたいと思うから。」（意見 No.33）

### Category1-4「親からの影響－受動的な態度」

「親」(頻度 7)

「選挙があるときは、親は必ず行くから。親と一緒に行くと思う。」(意見 No.118)

「親もしっかり行っているので、しっかり行きたい。」(意見 No.1)

### (6)「選挙に非参加」の区分における具体的な意見内容

「選挙に非参加」を特徴づける言葉として、「変わる(変わらない)」「分かる(分からない、分かんない)」「理解」に加え、「興味」「関心」「結果」「面倒くさい」「家族」を議論の対象としている。

意見の具体例は、以下のとおりだが、これらの意見は「選挙・候補者・政治についての知識、理解の不足」「選挙・候補者・政治に対する興味、関心の低さ」「投票に対する有効性感覚(政治的有效性感覚)の低さ」「投票に対する負担感」の4つに大別できる。

### Category2-1「選挙・候補者・政治についての知識、理解の不足」

「分かる」(頻度 8)

「だれに投票すべきか分からない。」(意見 No.141)

「選挙がよく分かんない。」(意見 No.83)

「今の政治は何がしたいのか分からないから。」(意見 No.87)

「理解」(頻度 7)

「まだどのように選ぶべきなのか理解していないので、20歳くらいまでは行かないと思う。」(意見 No.85)

「選挙を理解することに少し時間がかかる。」(意見 No.95)

### Category2-2「選挙・候補者・政治に対する興味、関心の低さ」

「興味」(頻度 3)

「興味がない。歳をとれば行くかもしれない。」(意見 No.63)

「関心」(頻度 3)

「選挙に関心がないから。」(意見 No.68)

### Category2-3「投票に対する有効性感覚(政治的有效性感覚)の低さ」

「変わる」(頻度 11)

「どうしても一票に重みがあるとは思えない。大差であれば一票を入れなくても変わらないから。数字で物事を決めるなら大差がついている時点で行かない。数字が結果。」(意見 No.84)

「自分が行ったところで何も変わらない。」(意見 No.86)

「結果」(頻度 2)

「自分のたった一票で結果が変わらないと思うから。」(意見 No.146)

### Category2-4「投票に対する負担感」

「面倒くさい」(頻度 2)

「疲れる。めんどくさい。」(意見 No.103)

「家族」(頻度 2)

「家族行ってないし、その場所に行くのが面倒。」(意見 No.88)

### (7) 分析結果の考察

投票参加、つまり「選挙の際に、有権者が投票に行くのか、それとも棄権するのか」を決定する要因を説明する仮説として、a. 社会動員仮説、b. 合理的投票仮説、c. 投票動機仮説がある(三宅, 1984, p.10)。

これらのうち、Downs が提示した考えを Riker and Ordeshook が定式化したモデルが、合理的投票仮説(期待効用モデル)である(三宅 1989,pp.182-183、小林 2000,pp.7-10)。

具体的には、有権者が投票することによって得られる利益を R、自分の投票参加が投票結果にもたらす影響についての主観的確率を P、政党間の期待効用差を B、投票コストを C、投票の長期的利益を D とすると、 $R = PB - C + D$  の関係が成立すると主張している。

このモデルの特徴は、投票参加によって生じる利益とコストに注目している点にある。

つまり、有権者は投票することで自分の望む政策が実現するかもしれない利益と、政党や候補者についての情報収集や投票所に足を運ぶコストを比較し、コストよりも利益が大きいと感じる有権者は投票し、逆にコストの方が大きいと感じる有権者は棄権するものとするモデルであるが、PBCD に関係する要因が投票参加に影響を与えていることは広く知られている。

では、投票参加を促進する主権者教育のあり方として、どの様な教育がなされるべきであろうか。

中谷(2015,pp.26-28)は、前述した PBCD と関連付けながら、その結論として、次のような主権者教育の方向性を示している。すなわち、「実際に政治参加を行う上で、今まさに動いている現実の政治過程を理解するための知識とともに、重要な争点での政治的アクターの配置図や争点が自己や社会に与える影響の認知、自身の意思形成、これらを行うための情報を読み解く力と、行動の動機づけとなる公的事柄への関心や内的有効性を育む必要がある」としている。

今回の3事例の分析結果からは、「選挙への参加」の背景要因として「選挙・投票に対する義務感」「選挙・投票に対する権利意

識」「選挙・投票を通じた社会参加への意欲」「親からの影響-受動的な態度」があることが確認された。

また、「選挙への不参加」の背景要因として、「選挙・候補者・政治についての知識、理解の不足」「選挙・候補者・政治に対する興味、関心の低さ」「投票に対する有効性感覚(政治的有効性感覚)の低さ」「投票に対する負担感」があることが確認された。

本稿では、今回の分析結果と整合性の高い、中田が示す方向性をさしあたり基本としていきたいと考えている。しかしながら、大学での教育カリキュラムのあり方と、その具体化についての検討は、他日を期すものとした。また、「親からの影響」、つまり、政治的社会化に関連する要因も見られたことから、このカリキュラムの検討にあたっては、大学生にとどまらず、社会人向け(リカレント教育)も含めていきたいと考えている。

## 第4章 おわりに

選挙権年齢の引き下げに伴い、主権者教育に対する関心が高まっており、高校段階での取り組みが進展し、「公共」の必修化に伴い、主権者教育はさらに深化していくことが予測される。

しかし、高校教育という限られた期間で、若者の意識や行動様式を大幅に変え、投票参加を促進するという好循環の確立は難しく、大学教育機関においても主権者教育の必要性が存在するのではないか。この際、高校と大学がそれぞれ独立した教科、カリキュラムにより取り組むよりも、それぞれが段階性と連続性を持つ、いわゆる「高大接続/連携」の形をとりながら、大学教育機関にふさわしい主権者教育を構想してい

く必要があると思われる。

本稿はこうした問題関心の下、筆者の行った主権者教育に関するアンケート調査結果を中心に、学生の自由記述の中から、大学教育機関における「主権者教育」の方向性を検討するための基礎的研究に取り組んできた。

結論としては、先行研究の投票参加モデルの有効性と、主権者教育の方向性を確認した研究ノートとしてのものにとどまっている。

今後の課題として、主権者教育や政治教育の方法に関する研究と、教育実践事例を蓄積させ、大学教育機関における効果的な教育方法や教材の開発を目指していきたい。

#### [注]

1) 「主権者教育」については、「選挙や代表民主制の担い手をいかに育てるかという側面だけでなく、より広く民主主義=デモクラシーを担う市民に対し、いかなる資質・能力が要求されるのか、そして、そのような能力の修得のためにはどのような教育内容や方法が求められているのかという観点からも問い直しが必要である」という指摘がある(松田2017, pp.236-237)。

また、ピースタ/上野他訳(2014)は、(シティズンシップ)教育の課題は、既存の民主主義秩序へと社会化するための、「社会化に向けた民主的な教育」ではなく、民主的に存在し行動する機会を創造するための、「主体化に向けた民主的な教育」に焦点をあてることにある。つまり、教育が子ども、若者、大人に、民主主義の、困難で、つねに開かれた実験に参加する機会を提供することである、としている。さらに、主権者教育の主権者の範囲につ

いて、「主権主体としての国民」と「人権主体としての個人」、「単数形と複数形の主権者」や「時間の中の主権者」という視点到留意すべきであるとの指摘もある(吉田・横大道2019)。

これらの指摘はいずれも重要な視点、論点であるが、ここではそのことを確認するにとどめておく。

- 2) 同書(p.7)によれば、「政治的な教養を育むとは具体的には、まず、政治の仕組みや原理について知ることはもちろんのこと、政治が対象とする社会、経済、国際関係など様々な分野において日本の現状はどうなっているのか、また課題は何かといったことについて理解することが必要です。また、政治とは自分で判断することが基本ですので、課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えを作っていく力が必要です。さらには、各人の考えを調整し、合意形成していく力も政治には重要であり、とりわけ、根拠をもって自分の考えを主張し説得する力を身に付けていくことが求められます」としている。
- 3) 多くの授業実践事例が文献報告されている。例えば、18歳選挙権研究会(2015)、広田他(2015)、明るい選挙推進協議会(2016)、桑原(2017)、藤井・橋本(2017)などがある。
- 4) 計量テキスト分析とは「計量的分析手法を用いてテキスト型データを整理又は分析し、内容分析(content analysis)を行う方法である。計量テキスト分析の実践においては、コンピュータの適切な利用が望ましい」(樋口2018, p.15)。
- 5) この模擬授業は、中央学院大学社会システム研究所の研究プロジェクト「高大接続・連携教育の実践研究」(座長: 佐藤

寛所長、平成 29 年度から平成 30 年度)の一環として実施した。授業の講師は本学現代教養学部の高木康一准教授である。

- 6) 本節は、佐藤・中川他 (2017) を再構成している。
- 7) 意見の詳細は、前掲注 6 の pp.34-36 を参照。
- 8) 本稿では、Version:3.Alpha.17h [Perl5.142,Perl/Tk804.03] を利用した。

#### [参考文献・資料]

- 飯田健・松林哲也・大村華子 (2015) 『政治行動論－有権者は政治を変えられるのか』有斐閣ストゥディア
- 牛澤賢二 (2018) 『やってみようテキストマイニング－自由回答アンケートの分析に挑戦！－』朝倉書店
- ガート・ビースタ/上野正道・藤井佳世・中村 (新井) 清二 [訳] (2014) 『民主主義を学習する 教育・生涯学習・民主主義』勁草書房
- 桑原敏典 (2017) 『高校生のための主権者教育実践ハンドブック』明治図書出版
- 公益財団法人明るい選挙推進協議会 (2016) 『現役先生が教える 主権者教育授業事例集』国政情報センター
- 小林良彰 (2000) 『選挙・投票行動 (社会科学の理論とモデル 1)』東京大学出版会
- 佐藤寛・中川淳司・高木康一・林健一・蓑島正基・中野敏之・内堀直行・斎藤真久 (2017) 「(研究ノート) シティズンシップ教育を核とした高大連携プログラムの研究 (第 1 報) —「高大接続・連携教育の実践研究」プロジェクト—」中央学院大学社会システム研究所紀要第 18 巻第 1 号 pp.29-41
- 18 歳選挙権研究会 (2015) 『18 歳選挙権の手引き (－改正法の詳細から主権者教育の現状/事例まで－)』国政情報センター
- 末吉美喜 (2019) 『テキストマイニング入門 EXCEL と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社
- たかまつなな (2017) 『政治の絵本－現役東大生のお笑い芸人が偏差値 44 の高校の投票率を 84% にした授業』弘文堂
- 中谷美穂 (2015) 「主権者教育はどうあるべきか－政治参加研究の視点から」都市問題 2015 年 9 月号 vol.106 「特集 1 18 歳選挙権で何が変わるか」 pp.24-29
- 樋口耕一 (2018) 『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版
- 広田照幸・北海道高等学校教育経営研究会 (2015) 『高校生を主権者に育てる－シティズンシップ教育を核とした主権者教育』学事出版
- 藤井剛・橋本康弘 (2017) 『授業 LIVE 18 歳からの政治参加－アクティブ・ラーニングで学ぶ主権者教育「授業事例集」』清水書院
- 三宅一郎 (1989) 『投票行動 (現代政治学叢書 5)』東京大学出版会
- 松田憲忠 (2017) 「カウンター・デモクラシーと主権者教育」岩井泰信・岩崎正洋編著『日本政治とカウンター・デモクラシー』勁草書房
- 吉田俊弘・横大道聡 (2018) 「憲法をどう教えるのか (講座 探検する憲法－問いからはじめる道案内 第 8 回)」法学教室 2018 年 11 月号 No.458、pp.64-71
- 吉田俊弘・横大道聡 (2019) 「憲法をどう教えるのか (講座 探検する憲法－問いからはじめる道案内 第 21 回)」法学教室 2019 年 12 月号 No.471、pp.58-67

## [ 卷末資料 ] 「選挙への参加意向」の選択肢の理由（自由記述）

意見 No.	選択肢の理由	事例区分	参加意向	2段階評価
1	親もしっかり行っているの、しっかり行きたい。	事例 1	1	選挙に参加
2	行かないと悪い気がする。	事例 1	1	選挙に参加
3	権利だけでなく義務だと教えてもらったから。	事例 1	1	選挙に参加
4	塵も積もれば山となるから。	事例 1	1	選挙に参加
5	親に連れられて行く。行かないといけないと思っているから。	事例 1	1	選挙に参加
6	自分の一票では何かが変わるわけではないけれど、社会の利益は大事だから選挙には参加しておきたい。	事例 1	1	選挙に参加
7	税金を払っているの、それをどう使うかチェックする必要があるから。	事例 1	1	選挙に参加
8	現状の国会を見ると政党のバランスが崩壊しているのが気になる。さらに汚職もいまだ残っている。国のあく抜きをしなければならないと考えた。	事例 1	1	選挙に参加
9	若い人の意見は必要だから。	事例 1	1	選挙に参加
10	今日の講演で学んだことを活かして投票したいからです。	事例 1	1	選挙に参加
11	たとえ一票でも自分が考えていれる一票が大切である。	事例 1	1	選挙に参加
12	自分の考えと近い人に当選してほしいから。	事例 1	1	選挙に参加
13	日本を変えたい。	事例 1	1	選挙に参加
14	一人一人の政策がどのようなものか、どのような考えを持っているのか気になる。	事例 1	1	選挙に参加
15	政府に口出せないから。	事例 1	1	選挙に参加
16	(理由記載なし)	事例 1	1	選挙に参加
17	自分の未来だけでなく、自分よりも年下の人や周りの人にもかかわることなので、選挙に行かなくてはならないと思う。	事例 1	1	選挙に参加
18	選挙権を持っている限り、憲法で定められているので行くべきだと思うし、これからも自分が住む場所の政治についてのことなので、関与しておくべきだと考える。	事例 1	1	選挙に参加
19	日本に住んでいる限り、日本の政治に直接的には関わらなくても自分の生活には間接的に関わってくるから。	事例 1	1	選挙に参加
20	小さい頃から親もみんな選挙に行っていて、それが義務だと感じたから。	事例 1	1	選挙に参加
21	家族が行っているから。	事例 1	1	選挙に参加
22	自分の一票で国を変えに行く	事例 1	2	選挙に参加
23	もう少し選挙のしくみを理解してからにしたい	事例 1	2	選挙に参加
24	これから日本の政治の中心になる人は自分で理解し、決めたいから。	事例 1	2	選挙に参加
25	大人になるには政治について避けては通れない道なので、しっかりと知識をつけるため。また経験も大事だから。	事例 1	2	選挙に参加
26	国だけでなく自分たちにも関係があるから。	事例 1	2	選挙に参加
27	暇だったら行く。	事例 1	2	選挙に参加
28	一人一人の一票が大事だと思ったから。	事例 1	2	選挙に参加
29	当日よほどのことがない限りは行く予定。	事例 1	2	選挙に参加



意見 No.	選択肢の理由	事例区分	参加意向	2段階評価
30	今の国をかえるためにも積極的に選挙にはいくべきだと思う。	事例 1	2	選挙に参加
31	自分も権利を持っているのだから無駄にしないため。	事例 1	2	選挙に参加
32	自分の生活に関わることだから。	事例 1	2	選挙に参加
33	自分も選挙に参加してみたいと思うから。	事例 1	2	選挙に参加
34	選挙権を持っているから。	事例 1	2	選挙に参加
35	選挙権を持っている以上、いけるときはなるべく行こうと思う。	事例 1	2	選挙に参加
36	なんとなく。	事例 1	2	選挙に参加
37	選挙に行かないと最終的に自分が不利になるから。	事例 1	2	選挙に参加
38	いい国になってほしいから。	事例 1	2	選挙に参加
39	自分の意見を尊重できる。	事例 1	2	選挙に参加
40	まずは親が選んだ候補者を選んで流れを知っておきたいから。	事例 1	2	選挙に参加
41	義務感	事例 1	2	選挙に参加
42	大事な一票だから。	事例 1	2	選挙に参加
43	選挙のしくみなどをしっかり理解できたら行こうと思います。	事例 1	2	選挙に参加
44	正直行く想像が付きません。	事例 1	2	選挙に参加
45	一人の国民としてもだが、自分の入れた相手を観察するのも面白いと思うから。	事例 1	2	選挙に参加
46	自分の思いがあるから。	事例 1	2	選挙に参加
47	今回の講演会で今は選挙に参加しようと思うが、将来の自分に対し自信がないので行かない可能性もある。	事例 1	2	選挙に参加
48	もっとしっかり政治について理解ができたら行くと思う。	事例 1	2	選挙に参加
49	理解ができるようになれば自分の国なので行こうと思う。	事例 1	2	選挙に参加
50	日本の政治について少し難しいが考えたいとは思っているから。適切でない人が選ばれてほしくはないから。	事例 1	2	選挙に参加
51	今のうちにしっかり考えたい。	事例 1	2	選挙に参加
52	住みやすい町を任せるから。	事例 1	2	選挙に参加
53	一票を大切にしたいから。	事例 1	2	選挙に参加
54	今日の話聞いて何となく行っというほうがいいかなと思った。	事例 1	2	選挙に参加
55	18歳だから行くと思う。	事例 1	2	選挙に参加
56	自分の一票が大切だから。	事例 1	2	選挙に参加
57	誰に投票していいかわからない。	事例 1	2	選挙に参加
58	18歳だからです。	事例 1	2	選挙に参加
59	少し興味があるので。	事例 1	2	選挙に参加
60	国民一人一人が協力していった方がいいと思うから。	事例 1	2	選挙に参加
61	まだどんなことか理解できてないから、行くかどうか決めていない。親が行けと言っているから多分行く。	事例 1	2	選挙に参加
62	自分にはまだ早い。	事例 1	3	選挙に不参加
63	興味がない。歳をとれば行くかもしれない。	事例 1	3	選挙に不参加

意見 No.	選択肢の理由	事例区分	参加意向	2段階評価
64	18歳ではあるが、まだ日本の政治を決めていくことはできないと考えるから。	事例1	3	選挙に不参加
65	めんどくさい。	事例1	3	選挙に不参加
66	自分の一票で何かが変わるわけではなさそう。	事例1	3	選挙に不参加
67	行く意味を見出せない。	事例1	3	選挙に不参加
68	選挙に関心がないから。	事例1	3	選挙に不参加
69	行く意義がないから。	事例1	3	選挙に不参加
70	選挙に行ったところで、一票だけではそこまでかわらないから。もともと自分の家族は選挙に行かないので、自分も行かないと思います。	事例1	3	選挙に不参加
71	まだよく理解できないから。	事例1	3	選挙に不参加
72	あまり興味が分かんない。	事例1	3	選挙に不参加
73	興味が無いから。	事例1	3	選挙に不参加
74	めんどくさい。	事例1	3	選挙に不参加
75	結局一票の意見は変わらないから。	事例1	3	選挙に不参加
76	選挙に興味が無いから。	事例1	3	選挙に不参加
77	自分一人だけでは票数は変わらないから。	事例1	3	選挙に不参加
78	行っても何かが変わるわけじゃないから。	事例1	3	選挙に不参加
79	まだよく分からないから。	事例1	3	選挙に不参加
80	よくわからない。よほどのことがないと行かないと思う。	事例1	3	選挙に不参加
81	今の政治家は色々事件を起こしていて信用ができないから。	事例1	3	選挙に不参加
82	関心があまりないから。	事例1	3	選挙に不参加
83	選挙がよく分かんない。	事例1	3	選挙に不参加
84	どうしても一票に重みがあるとは思えない。大差であれば一票を入れてなくても変わらないから。数字で物事を決めるなら大差がついている時点で行かない。数字が結果。	事例1	3	選挙に不参加
85	まだどのように選ぶべきなのか理解していないので、20歳くらいまでは行かないと思う。	事例1	3	選挙に不参加
86	自分が行ったところで何も変わらない。	事例1	3	選挙に不参加
87	今の政治は何がしたいのか分からないから。	事例1	3	選挙に不参加
88	家族行ってないし、その場所に行くのが面倒。	事例1	3	選挙に不参加
89	外に出たくない。	事例1	3	選挙に不参加
90	めんどくさい	事例1	3	選挙に不参加
91	良く分からないから。	事例1	3	選挙に不参加
92	良く分からないから。	事例1	3	選挙に不参加
93	自分の1票で決まるわけじゃないんだから、行かなくてもいいと思う。	事例1	3	選挙に不参加
94	せっかくの休日を選挙に行くことに使いたくない。	事例1	3	選挙に不参加
95	選挙を理解することに少し時間がかかる。	事例1	3	選挙に不参加
96	まだ政治の内容をきちんと理解していないから。	事例1	3	選挙に不参加
97	詳しく理解していないから。	事例1	3	選挙に不参加

意見 No.	選択肢の理由	事例区分	参加意向	2段階評価
98	理解していないから。	事例1	3	選挙に不参加
99	政権公約に魅力がない。	事例1	4	選挙に不参加
100	面倒くさいしよくわからないから。	事例1	4	選挙に不参加
101	私は日本の政治家に呆れ、また、男性差別大国の日本が大嫌いなので行こうとは思いません。	事例1	4	選挙に不参加
102	話は聞いたが、やはり自分の一票で変わらないと思う。	事例1	4	選挙に不参加
103	疲れる。めんどくさい。	事例1	4	選挙に不参加
104	自分の一票で何かが変わることはないから。	事例1	4	選挙に不参加
105	一票入れても変わらないから。	事例1	4	選挙に不参加
106	一票じゃ変わらないから。	事例1	4	選挙に不参加
107	面倒くさい。考えるつもり無い。	事例1	4	選挙に不参加
108	政治のことが、よく分からない。	事例1	4	選挙に不参加
109	国籍が日本ではないから選挙権を持っていない。	事例1	4	選挙に不参加
110	私の意見で世間は変わらない。	事例1	4	選挙に不参加
111	理解できないから。	事例1	4	選挙に不参加
112	暇がない。	事例1	4	選挙に不参加
113	行ったほうが、今後の選挙にプラスになるから。	事例2	1	選挙に参加
114	少しでも若者の選挙の投票率を上げたいから。	事例2	1	選挙に参加
115	国民の義務だと思うから。	事例2	1	選挙に参加
116	自分たちの未来は、自分の一票に価値があって、その一票は大事だと思ったから。	事例2	1	選挙に参加
117	選挙に行くことはあたりまえだし、投票をしないで自分が損をするのは嫌だから。	事例2	1	選挙に参加
118	選挙があるときは親は必ず行くから。親と一緒に行くと思う。	事例2	1	選挙に参加
119	唯一持っている大きな権利なので、投票しないのはもったいないと思ったから。政治に興味があるから。	事例2	1	選挙に参加
120	選挙に行くことは国民の権利であり、義務であると考えているからである。	事例3	1	選挙に参加
121	日本に住んでいる以上政治については若者から考えるべきであると思う。自分一人で変わるものではないが行かなければ意味がないと思う。	事例3	1	選挙に参加
122	(理由記載なし)	事例3	1	選挙に参加
123	親戚が県会議員であったため、昔から選挙と家関わっていたから、選挙は行くのが当たり前だと思っていた。また、選挙は国民の義務だから。	事例3	1	選挙に参加
124	自身も無関係ではなく、生活や今後の変化に自身の考えを投票したいから。	事例3	1	選挙に参加
125	少しでも選挙に行って影響力持たなければ自分たちの世代にとって嬉しくなるような政策が出てこなくなる恐れがあるから。	事例3	1	選挙に参加
126	シルバー民主主義に変化してきている以上、若者が投票に行かなければ、どんどんと高齢者の社会になってしまうため、少しでも自分達の望む社会にするために投票に行く。	事例3	1	選挙に参加

意見 No.	選択肢の理由	事例区分	参加意向	2段階評価
127	若者達に不利な人達に当選されたくない為、必ず行くようにしている。	事例3	1	選挙に参加
128	毎回選挙に参加しているので次回以降も参加します。ただ、今回の講義を聞いて、いつもは親に合わせていますが今度からはその人がどんな政治をしようとしているかをちゃんと聞いてから入れようと思いました。	事例3	1	選挙に参加
129	今回の授業の内容と似たような内容を、投票権を持つ年齢が下がることが話題にあがった時、高校の先生から聞いて、それ以降行くようにしようと決めているから。	事例3	1	選挙に参加
130	選挙に行かないと、どのような地域政策を行おうとしているのが分からない。そして自分の意思を示すことが出来ないから参加する。	事例3	2	選挙に参加
131	やっぱり自分の投票の1票で誰が政治をするかが変わるので選挙に行こうかと思ったから。	事例3	2	選挙に参加
132	行かなければ地域が自分の望んだ形になる可能性が低くなるが、行くことによって可能性が高くなるから。	事例3	2	選挙に参加
133	せっかく貰った一票なので自分で考えて投票したいと思ったからです。	事例3	2	選挙に参加
134	選挙をしなくてはいけないのは分かっているが、選挙の時間や場所、やり方などが分からない。また、だれに投票すればいいのかわからないから。	事例3	2	選挙に参加
135	今回の内容を聞きなぜいかにないといけないうかを理解することができたから。	事例3	2	選挙に参加
136	年齢的にも行かなくてはならないと感じるから。また、将来我々の世代が歳をとった時に不満だらけになってしまっは遅いと思えるから。	事例3	2	選挙に参加
137	地域住民の一人として、自分の住んでいる町をより豊かに発展させてくれるのは誰かをよく考えて責任感を持って一票を投票するため。	事例3	2	選挙に参加
138	あまり政治や行政に興味関心がないから。	事例3	2	選挙に参加
139	選挙に詳しいわけではないのですが行ったほうが地域の問題視されることや興味をもち行くことによってより多くのことを知れる気がするから。	事例3	2	選挙に参加
140	現在我孫子で一人暮らしをしているが、住民票が実家のままの状態であり自分の予定と帰省する時間などを考えると厳しいと思ったから。	事例3	3	選挙に不参加
141	だれに投票すべきかわからない。	事例3	3	選挙に不参加
142	(理由記載なし)	事例3	3	選挙に不参加
143	若者は選挙に行くべきであるとよく聞かすが、社会がそれをバックアップすべき。必ずいけるような環境作りや風潮を大人や会社、学校が率先できれば自然と若年層の投票率は上がるはずである。	事例3	3	選挙に不参加
144	選挙に関心がないわけではないが、中途半端に政策をしている段階でまだ多角的な視点で政策について考える余裕がないため、今はそんなに行こうと思わない。気が向いたら行っても良いかなといった感じである。	事例3	3	選挙に不参加
145	候補者は市民に何かの政策実現を約束します。しかし現代において、生活水準が向上する政策の実現はあまりありません。そのため誰を選ぶかということは、あまり重要ではないと考えたからです。	事例3	3	選挙に不参加
146	自分のたった一票で結果が変わらないと思うから。	事例3	3	選挙に不参加

## Issues of university educational institutions from the results of questionnaire survey on Citizenship education: Trial use of metric text analysis

Kenichi Hayashi

Associate Professor , Faculty of Liberal Arts, Chuo Gakuin University

### Abstract

In Japan, interest in Citizenship education has increased as the age of suffrage has been reduced. In addition, it is expected that Citizenship education will be further deepened as practical activities at high school progress and new subjects, "Public" become compulsory.

However, it is considered difficult to significantly promote participation in voting, such as by drastically changing the attitudes and behaviors of young people, during the limited period of high school education alone.

Therefore, in this paper, we conducted a basic study to envision Citizenship education in a university educational institution in a form that has continuity with the curriculum of high school education.

As material for this examination, quantitative text analysis was performed using the intention to participate in the election (participation / non-participation) and the reasons (free description) obtained from the results of three questionnaire surveys. As a result of the analysis, each factor was found as follows.

#### Background factors for "election participation"

- A) Obligation for election and voting
- B) Awareness of rights for elections and voting
- C) Willingness to participate in society through elections and voting
- D) Influence from parents

#### Background factors for "non-election participation"

- A) Lack of knowledge and understanding of elections, candidates and politics
- B) Interest in election, candidates, politics, low interest
- C) Poor sense of effectiveness for voting (political effectiveness)
- D) Feeling of burden on voting